

生徒の変化が目に見える 「アクティブ・ラーニング」 ～教育を変える、教員も変わる～

茨城県立並木中等教育学校 校長 中島 博司 先生



茨城県下有数の進学校である中高一貫の並木中等教育学校。「Be a top learner!」という学校像を掲げ、「自制」「自律」「自尊」を根本概念とした、次代を担う「人間力」を備えたグローバルリーダーの育成をめざしています。昨年度から校長に就任した中島博司校長に、アクティブ・ラーニングを中心とした教育への取り組みについてうかがいました。

いまこそ、日本の教育の分岐点

20年後に日本の教育を振り返った時、「あの時が分岐点だった」と言われるだろう所に、いま私たちは立っていると感じています。これから教育をどう変革していくかが、日本の将来を決めることになるでしょう。グローバル社会を生き抜くには、きちんと自分の意見を言えて、リーダーシップをとれる若者を育てていかなければなりません。そうした思いから、アクティブ・ラーニング（以下AL）の必要性を感じるようになったのです。

授業改革は大変難しいテーマです。従来の教育スタイルを変えるには

勇気と決断を必要とするでしょう。私はALの最終目的は「アクティブラーナー（能動的学習者）の育成」だと考えています。ALを実践するために、授業の何%がアクティブラーナーの育成を意図した要素を含んでいるかという尺度「AL指数」を考案しました。ALの推進では、「講義型の授業」か「AL型の授業」かの選択を迫るわけではありません。高校の場合には知識を伝達する講義型の授業は重要です。高校ではAL指数は「AL20」（授業の20%程度の講義の中にスパイスのようにALを入れるハイブリッド型がいいと考えています）。

創意工夫で

アクティブ・ラーニングを实践

また、ALを学力向上につなげるために考案したのが「R80（読みはアールエイティ）」です。Rは振り返り（リフレクション）・再構築（リストラクチャー）のRで、AL型授業の最後に内容の振り返り・再構築をして80文字以内でまとめるというものです。必ず2文で書き、接続詞で結びます。その目的は思考力「判断力」「表現力」そして「論理力」「育成で、それが学力向上につながり、「新テスト」の記述式問題への対応策にもなります。「R80」は、本校のさまざまな教科のAL型授業で実践されて成果を上げています。

もう一つ考案したのが「T O

（Teaching Others）他の人に教える（学習）です。これは「深い学びへ」というサブテーマを込めたもので、具体的には学年を超えた「縦割り学習」です。今年1月に、初めて実施したT O学習は、4年次生（高一）が2年次生（中2）に数学を教えるというミッションでした。ペアを組んで自己紹介をした後、2年次生が実力テストについて質問し4年次生が解説したり、確認問題を一緒に解いたりしました。振り返りの「R80」で、4年次生からは「自分が一方的に話すだけだと、教わる側のペースと合わない。しかし、お互いの意見を発表しながら進めると、学習に対する理解が深まり、より記憶に残る時間になる」と思っただ。2年次生からは「実力テストでは、自力で解けない問題がたくさんあり、見直してもよく理解できなかった。でも、今回先輩と一緒に考えることで、難しい問題を理解できたので、感動した」という声が聞かれました。

生徒が変わる、教員も変わる、 みんなが幸せになる

授業改革はトップダウンではなく、ボトムアップでなければなりません。管理職はその改革の「種蒔き人」であるべきだと思っています。T O学習も私はヒントを与えただけで、実際に授業内容を考えて構築したのは先生方です。数多くのAL型授業を見てきましたが、成果をあげている取り組みの

根底には先生と生徒、生徒同士の「リスペクト（敬意を払う、尊敬する）」がしっかりと醸成されていることに気づきました。リスペクトのない環境ではALは成立しないとも言えます。ALを推進すると、授業が変わり、生徒が変わり、先生方も変わります。さらに、生徒がアクティブラーナーになると学力も向上します。そして何よりも、関わるすべての人の毎日が明るく充実し、みんなが幸せになれると信じています。

校長の視点

する教育方針について、熱く語ります！